

伊那市50年の森林ビジョンの策定

平成28年(2016年)、伊那市では「山(森林)が富と雇用を支える50年後の伊那市」を目指して「伊那市50年の森林(もり)ビジョン」を策定しました。

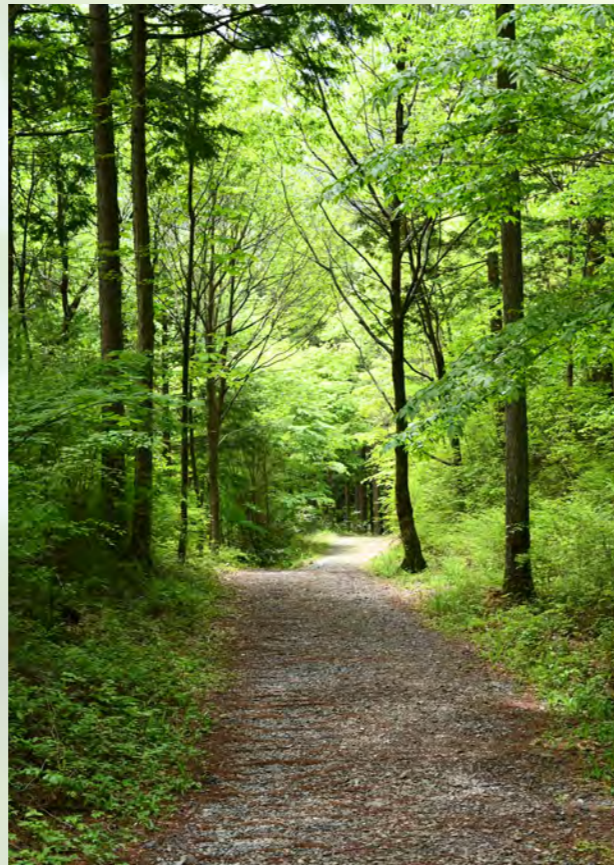
私たちの周りに広がる森林は、伊那市の貴重な財産です。森林は木材を生産する経済的な価値を持っていますが、その他に文化的・防災的・環境的など複数の価値を持っています。森林を、伊那市を発展させるために必要な“資本”と捉え、50年という時間軸で森林という“資本”の価値を高めていくこと、これが伊那市50年の森林ビジョンの目標です。



伊那市50年の森林ビジョン 実行計画

50年の森林ビジョンの計画期間は2016年4月～2066年3月です。ビジョンでは、長期的な視点で目標を設定し、その目標を達成するために短期(10年)でやるべき事(実行計画)を決めて実行しています。

ビジョンを策定してから10年が経過し、2016年度～2025年度のビジョン第1期が終了しました。この10年間でマツ枯れが進行するなど森林の状況や課題は大きく変化しました。そこで、この変化に対応した今後10年のやるべき事、第2期実行計画を策定しました。



第2期実行計画策定の方針

第2期実行計画は、以下の5つの方針で取りまとめました。

- 伊那市50年の森林ビジョンで当初策定された実行計画は、森林・林業に関わる重要な課題を指摘しているので意識していく。
- そのうえで、多岐にわたる課題は、改めて整理をすると同時に、実現可能な実行計画となるよう、この第2期10年の重要課題を選定し、その他は長期的に取り組み、情報収集を行うモニタリング項目とする。
- 第1期の評価および委員からのコメントを踏まえる。
- 各計画の達成度を客観的に評価できるように、できるだけ数値指標を設ける。
- 各目標について、誰が行うべき目標なのか、主体を明確にする。

この第2期実行計画では、誰が何をやるかわかりやすくまとめています。**市**と示したように、市が主体となることも多いのですが、**事業者**、**市民**と書かれたものは、民間事業者や市民が中心になって達成したい計画です。是非、伊那市50年の森林ビジョンを知って、その達成のために参加してください。



「伊那市50年の森林ビジョン」

第2期(2026年度～2035年度)実行計画

令和8年4月
伊那市

発行/伊那市農林部 50年の森林推進課

〒396-8617 長野県伊那市下新田3050番地

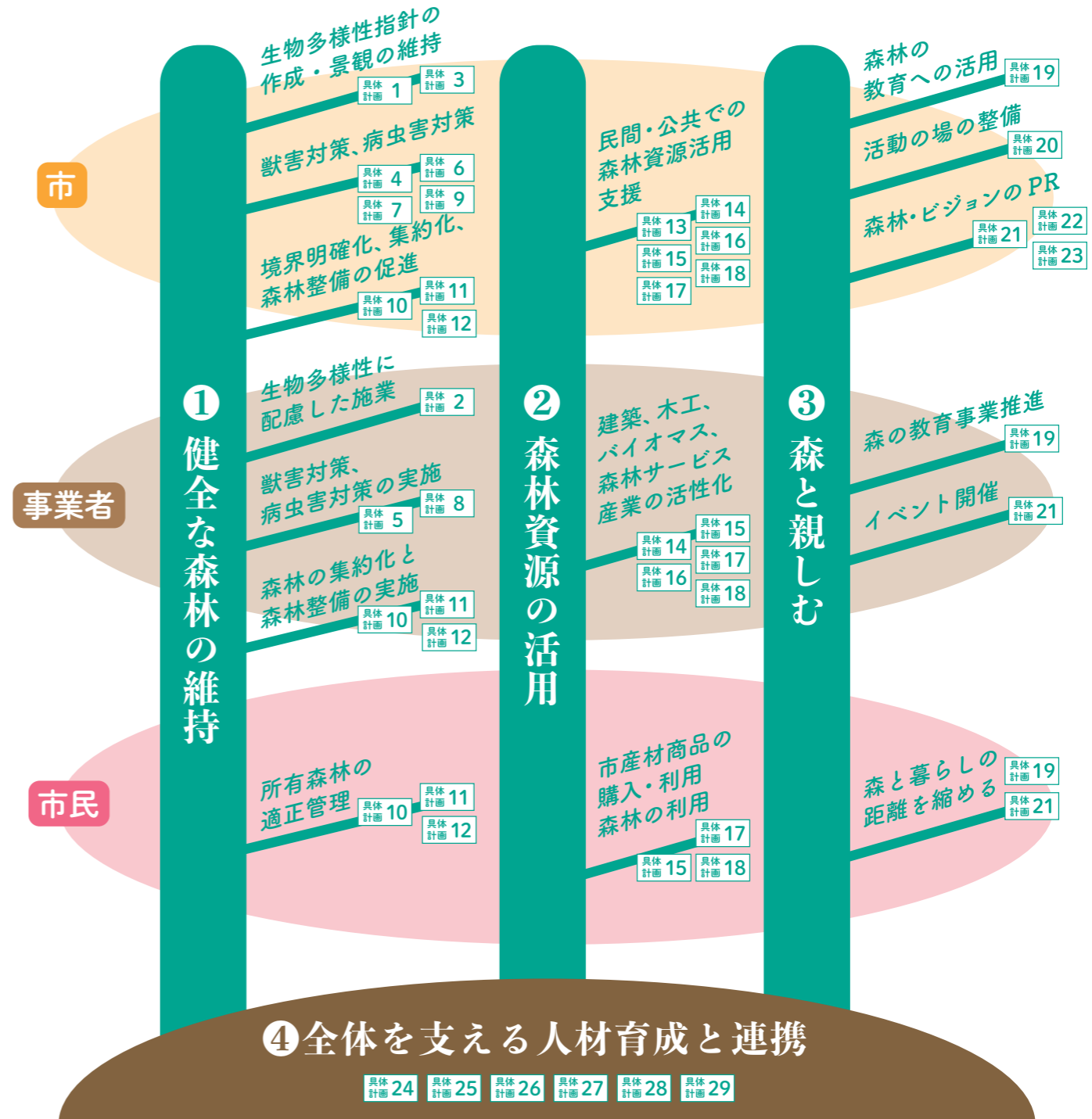
電話:0265-78-4111

FAX:0265-72-4142

E-mail: 50ms@inacity.jp

「伊那市50年の森林ビジョン」

第2期(2026年度～2035年度)実行計画



第2期実行計画の見取図

① 健全な森林の維持

その1 生物多様性の保全・向上と景観の維持

- 具体計画 1 生物多様性を保全・向上させる施業指針の策定 **市**
- 具体計画 2 施業指針に応じた森林施業の実施 **事業者**
- 具体計画 3 特定外来種・竹林等の拡大防止に向けた検討 **市**

その2 獣害対策の推進

- 具体計画 4 ニホンジカ等、課題野生動物の生息状況・被害状況の把握、獣害対策の支援 **市**
- 具体計画 5 獣害対策の実施 **事業者**
- 具体計画 6 猟友会との連携 **市**

その3 マツ枯れ、ナラ枯れ対策の推進

- 具体計画 7 マツ枯れ被害の状況の把握、戦略的な対策検討、県との連携 **市**
- 具体計画 8 樹種転換、伐採処理の実施 **事業者**
- 具体計画 9 ナラ枯れの状況把握と対策検討 **市**

その4 森林境界の特定と集約化による民有林の森林整備の促進

- 具体計画 10 森林境界明確化と林地台帳の整備・精度向上 **市** **事業者** **市民**
- 具体計画 11 森林経営計画や、森林経営管理制度に基づく集約化 **市** **事業者** **市民**
- 具体計画 12 民有林の森林整備の促進 **市** **事業者** **市民**

- 森林の成長段階に応じた適切な伐採や搬出は、生物多様性を高めることに貢献します。
- 竹林やニセアカシアなどの外来種は繁殖力が強く、生態系を変化させてしまう恐れがあります。美しい里山の景観は、放置しては維持されません。
- シカ、イノシシなどの野生動物は、植栽した苗木を食べるなど農林業に影響を及ぼします。野生動物の生息状況、被害状況を把握し、適切な対策が必要となっています。
- マツ枯れが進行していて被害が拡大しています。アカマツの多い伊那市では、被害拡大防止に効果的なエリアで伐採を行うなど、戦略的な対策が必要です。
- ミズナラ、コナラが枯れるナラ枯れも市内で確認されています。今後被害が拡大する恐れがあります。
- 民有林の森林整備が進まない理由として、森林の所有者がわからない、また森林境界がわからないことが挙げられます。
- 市が整備し、森林の所有者や地番等を記載している林地台帳は、それらの情報をできるだけ正確に把握する必要があります。
- 森林整備は、小さな面積では効率よく行うことができません。複数の所有者の森林を集約化し、まとめることによって効率的に森林整備を進める必要があります。



現状と課題

② 森林資源の活用

その1 市産材活用

- 具体計画 13 公共施設での市産材の利用促進 **市**
- 具体計画 14 民間での市産材の利用促進および安定供給体制の確立 **市** **事業者**
- 具体計画 15 市産材活用に向けた市内外への情報発信及び市民の市産材積極利用 **市** **事業者** **市民**

その2 計画的バイオマス生産・普及

- 具体計画 16 安定したバイオマス資源供給体制の構築 **市** **事業者**
- 具体計画 17 家庭用バイオマス機器の普及促進(薪ストーブ、ペレットストーブ等) **市** **事業者** **市民**

その3 新たな森林利用

- 具体計画 18 森林サービス産業やカーボンクレジットの普及に向けた支援と実施 **市** **事業者** **市民**

- 森林資源に恵まれた伊那市ですが、生産された木材が十分に活用されていないのが現状です。伊那市の木が市内で加工され、市内で消費されるようにする必要があります。
- 伊那市は、ペレット・薪など木質バイオマスの利用が盛んです。木質バイオマスの活用をさらに進めると同時に、その原料の木材が安定的に供給される必要があります。
- 森林の機能は、木材を生産することだけではありません。ジョギングしたり自転車で走ったり、森林の空間そのものを利用することができます。このような森林空間を活用して楽しむことは、森林サービス産業と呼ばれます。また、森林は二酸化炭素を吸収し、地球温暖化防止に寄与します。森林の二酸化炭素吸収量を定量化して取引する仕組みとしてカーボンクレジットがあります。新しい森の活用法として、森林サービス産業やカーボンクレジットの普及などにも取り組む必要があります。

現状と課題

③ 森と親しむ

その1 市民との協働、森林の教育への活用

- 具体計画 19 森林体験、木工体験など教育への活用 **市** **事業者** **市民**
- 具体計画 20 ますみヶ丘市民の森など活動の場の整備 **市**
- 具体計画 21 森林をPRするためのイベント等の実施と参加 **市** **事業者** **市民**

その2 ビジョンの周知、広報、PR

- 具体計画 22 ビジョンの周知、広報、PR **市**
- 具体計画 23 森林のゾーニング結果の周知と見直し **市**

- ビジョンの達成には市民との協働は不可欠です。市民が森と触れる機会を増やし、市民の生活の中に森や森の恵みを取り入れる必要があります。
- 森林は教育の場でもあります。市内の子どもが森に触れて遊ぶことは、様々な学びに繋がり、森の楽しさや大切さを知るきっかけになります。
- 50年の森林ビジョンが策定されて10年が経ちますが、その内容がまだ十分に市民に伝わっていない部分があります。
- 平成29年度に森林を機能別に分類したゾーニング図を作成しましたが、事業者や森林所有者に十分に周知されていません。
- 都市部住民や移住希望者にとって、森林は伊那市への入り口です。市外の方が伊那市の魅力として森林を体験できるようにする必要があります。

現状と課題

市(伊那市)、**事業者**(林業事業者など事業者)、**市民**(森林所有者を含む市民)は具体計画を実施する主体。

④ 全体を支える人材育成と連携

その1 人材育成(行政、林業界、森林環境教育)

- 具体計画 24 伊那市職員で、林業・木材産業の専門職の育成 **市**
- 具体計画 25 林業・木材産業のリーダー育成 **市** **事業者**
- 具体計画 26 教育関係者との連携による森林教育人材の育成 **市**

その2 連絡協議、フィードバック

- 具体計画 27 市域林業・木材産業での連絡協議 **市**
- 具体計画 28 他産業分野や集落・区および国県・近隣市町村との連絡協議 **市**
- 具体計画 29 市役所関係部署の連携 **市**

- 50年の森林ビジョンを達成するためには、行政、林業界、教育活動の中心となる人材が必要です。様々な分野において、森林に関わるリーダーを育成していく必要があります。
- 50年の森林ビジョンは、市だけで達成できるものではありません。国や県、近隣市町村との連絡協議や、事業者や市民、さらには他業種との連携も必要です。また、市役所内でもさまざまな部署が連携して取り組む必要があります。

現状と課題



モニタリング項目

- 具体計画 30 市民参加型の自然環境保全活動のモニタリング **市**
- 具体計画 31 山地開発、水源林保全のモニタリング **市**
- 具体計画 32 自主的山地災害対策事例のモニタリング **市**
- 具体計画 33 適地適木のモニタリング **市**
- 具体計画 34 広葉樹林施業に関するモニタリング **市**
- 具体計画 35 皆伐、短期サイクル資源林、長期循環林のモニタリング **市**